

渋谷区恵比寿にある【POST】さんに 取材に行ってきました！

【概要】

出版社という括りで本を特集しているため、出版社の世界観を感じさせながら、海外の出版カルチャーを伝えられる唯一無二な本屋である。また、「POST」ではアートブックの情報を紙面にまとめ、配布している。書誌情報や説明が丁寧に書かれており、とても分かりやすいものになっている。

【内装】

オーナーの中島佑介氏自作の棚に「出版社特集」「アート」「写真」「デザイン」の4つのジャンルに分けて、本を並べている。またそれらは3か月に一度入れ替わるため、定期的に違った本に触れることができる。同じ場所に同一出版社の書籍（新旧問わず）を並べるなど、見やすくなる工夫もされている。

【系列店】

銀座「BIBLIOTHECA」（DOVER STREET MARKET GINZA の書店）

新宿「Gallery」（東京オペラシティのアートギャラリーのミュージアムショップ）

青山「新建築書店 | POST architecture books」（新建築社と POST で共同設立）

【取材内容】

スタッフのキム・テランさんが取材に応じてくださいました！

Q1. 出版社ごとの括りで本を入れ替えている理由は何ですか。

A. 同一出版社が今までに出版したものを多く揃えている本屋が日本にありませんでした。そのため、自分たちが取り扱うことで海外の出版カルチャーを伝えることができると考えたからです。

Q2. 住宅街に店を構えたのはなぜですか。

A. たまたま物件が空いていたからです。

店内には、DIY が得意なオーナーの中島が作った棚が多くあります！

Q3. 利用者の年齢層、傾向について教えてください。

A. 写真家の方や装丁のデザイナーさんが多いです。装丁で本を買う方も多いです。また、批評家の方が図録を探しに来たりもします。年齢が若い方もいらっしゃいます。

Q4. (チェーン店などの書店のような) いわゆる一般的な書店とは求められる対応が異なってくると思うのですが、接客で意識していることはありますか？

A. スタッフ全員、なるべくお声掛けをして、お求めになるものや商品について案内ができるようにしています。背表紙だけでは見つけにくい本が多いので。オンラインストアの説明文をスタッフが作成しており、説明文を書くために書籍を読んでいるので、取り扱っているものに対しての知識をもっています。本が好きなスタッフが多いです！

Q5. 企画展の展示の決め方を教えてください。

A. 企画展の決め方は、いろんな経緯があります。作家本人が声をかけてくることもあれば、オーナーの中島が声をかけることもあります。展示の配置は、中島がしていることもあれば、作家さんがしている場合もあります。展示販売も行っています。
「POST」では10/13(金)より、写真家ホンマタカシさんの展示会「Takashi Homma / Tokyo Olympia」を開催予定で、東京都写真美術館での展示「即興 ホンマタカシ」に合わせて行う予定です。

Q6. 本の買い付け方について教えてください。

A. 一つの方法で行っているわけではなく、出版社によって異なります。
例えば、Steidl (シュタイデル: ドイツ語写真集の国際的な出版社) は、「POST」が正規販売店なので、直接Steidlに連絡して入荷しています。オーナーの中島のチョイスで仕入れています。
MoMA (ニューヨークの美術館) の新刊、Roma publications や Fw:Books といったオランダの出版社の新刊がよく入ります。オランダは出版文化が盛んなんです。



Q7. オンラインストアの、「アート」「デザイン」「写真」のカテゴリでそれぞれ人気な商品を教えてください。

A. 「アート」

シェイラ・ヒックス（アメリカのテキスタイルアーティスト）の『Weaving as a metaphor』とルース・ファン・ビーク（オランダの写真家）のコラージュ本の人気が高いです。

「デザイン」

カール・ラガーフェルト（ファッションデザイナー）の回顧展（メトロポリタン美術館で行われた）の展示図録が人気です。出版されてすぐ入荷し、回顧展が行われているときにも POST で販売していました。

カレル・マルテンス（オランダのグラフィックデザイナー）の作品集やルース・マルテンス（カレル・マルテンスの妻）の作品集『Animal Books For (Reprint/ New Cover)』も人気です。

「写真」

ウィリアム・エグルストン（アメリカの写真家）の写真集が人気です。

70年台のファインアート・フォトグラフィーでは、アートとしての写真はモノクロのものという扱いでしたが、この人は、カラー写真をアート作品として使用した当時では珍しい作品を制作しました。その作品集の復刻本です。

海外のアートブックは、日本のアートブックに比べて多種多様な装丁があり、個々のデザインが際立っているのが特徴的です。

ここは本店なのですが、昨年2店舗増え、4店舗に拡大しました。それぞれセレクトが違います。青山に、『新建築』という雑誌と共同で設立した店舗があり、そこではプロダクトのデザインや建築関係の本を多く取り扱っています。なので、プロダクトが好きな方が当店にいらっしゃったら青山の店舗をおすすめしています。また、オペラシティのミュージアムショップはグッズが多いです。「ドーバーストリートマーケット（銀座）」の店舗にはファッション系の本が多いです。オーナーが書店ごとにテーマを決めて本の仕入れを行っています。

Q8. 書籍の電子化が進んでいますが、アートブックは紙が多いと感じました。紙で作られていることについての考えを聞かせてください。

A. やはり、手に取ってみると、電子書籍より見方が変わると思います。残りのページがどれくらいあるかや、小説ではどこまで読めば次の章があるか、が紙だと分かりますよね。アートブックを電子書籍であまり見たことがないので比較するのは難しいですが、本の質感だったり、色の出方が全く変わってくると思います。出版社によって、使用している紙を書いているところもあって、コレクションする楽しみが出ると思います。

【取材を終えて】

・様々なアートブックを一度にたくさん見ることが出来て興味深く、とても楽しかったです。どんなものがあるか丁寧にを見せていただき、本に触れながら取材ができたのもよかったですとおもいます！（美術史学科3年F.I）

・海外のアートブックであっても、アートブックなので感性で楽しめることができました。接客に重きを置いている本屋さんだけあって、解説が丁寧かつ知識が豊富だと感動しました！（国文学科3年M.Y）

・店内では自作の本棚に本が陳列されていると知り、他店にはあまりない内装だと思いました。取材前は一点ものばかりだと思っていたのですが、複数の在庫があるとわかり、様々な本が手に入りやすいことも魅力の一つだと思いました。本に鉛筆や鋏が添えられているものもあり、普段行く本屋では見ないPOSTさんならではのものをたくさん見ることができて、良い経験になりました。（国文学科1年A.M）

・テランさんの知識が豊富で、アートに触れていない、かつ英語があまりわからない私でも楽しみながら取材することができました！紙の質感がページごとに違ったり、本に仕掛けがあったり、遊び心満載のアート画集や写真集に心躍らされました。「紙の本っていいな」と思える取材になりました。（国文学科1年N.K）

・オンライン販売の説明文をスタッフの方が書かれているということもあり、接客を積極的にしていて、すべての本に対して知識があることを知り驚きました。印刷の感じや紙の質感も作品ごとに違って見ただけではなく、実際に手にとって楽しむということもでき、魅力的な本屋さんだと思いました。（国文学科1年S.T）

・私は取材には参加できませんでしたが、録音させていただいたものを聞きながら、テランさんの知識の豊富さに驚きました。元々、アートブックや画集、作品集にあまり触れたことがなかったのですが、テランさんの説明で、とても興味がわきました。実際に本を見て、紹介しながらインタビューに応じて下さって、取材がとても有意義なものになったと感じます。ご協力いただきありがとうございました。（国文学科2年C.N）

